

タマネギ春まき直播栽培の雑草防除体系

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

1 部門名

野菜－タマネギ－雑草防除

2 担当者名

八木田靖司

3 要旨

春まき直播栽培は春まき移植栽培と比べ育苗に要する労力を削減できるが、移植栽培と栽培期間が異なり、使用できる除草剤も制限がある。そこで、現在タマネギ直播栽培に登録のある除草剤の効果的な使用時期及び回数、物理的防除との組み合わせを検討した結果、春まき直播栽培では除草剤だけではなく中耕除草と手取り除草を組み合わせた雑草防除が必要であった。

- (1) 土壌処理剤 4 回、イネ科雑草茎葉処理剤 1 回の防除に併せて機械による中耕除草と手取り除草を行うことで、雑草の発生量を抑えられる（図 1、2）。
- (2) 中耕除草は土壌処理剤の散布前（播種直後処理を除く）に行い、株間に残草が繁茂してきた場合はタマネギ肥大期前（6 月下旬）までに 1 回と肥大期（7 月中旬）に 1 回手取り除草を行う。特に肥大期に大型化する雑草が残っていると収穫作業効率が低下するため注意する。
- (3) これらの成果をとりまとめた「雑草防除マニュアル（仮称）」を作成した。



図 1 タマネギ春まき直播栽培の雑草防除体系の例

- ※ シアナジン水和剤（グラメックス水和剤）は播種後出芽前（雑草発生前）に使用する。
- ※ ペンディメタリン乳剤（ゴーゴーサン乳剤）は播種後～本葉 2 葉期（雑草発生前）に使用する。
- ※ フロスルホカルブ乳剤（ボクサー）は中耕後（雑草発生前）、ただし収穫 45 日前までに使用する。
- ※ クレトジム乳剤（セレクト乳剤）は雑草生育期（イネ科雑草 3～5 葉期）ただし収穫 21 日前までに使用する。
- ※ 農薬の登録内容は 2025 年 12 月時点の農業登録情報。農薬使用時は最新の情報及びラベルの使用方法等を確認すること。

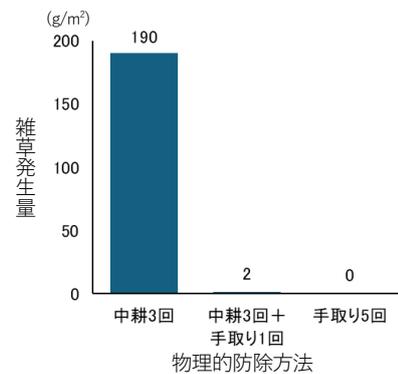


図 2 物理的防除による雑草防除効果（試験地：富岡町生産者ほ場、2025 年）

- ※ 2025 年 7 月 31 日調査。
- ※ 除草剤処理は下記の通り行った。
- 2025 年 4 月 9 日 シアナジン水和剤（薬量 75g/10a）
- 4 月 28 日 ペンディメタリン乳剤（薬量 400ml/10a）
- 5 月 23 日、6 月 30 日
- 6 月 13 日 フロスルホカルブ乳剤（薬量 400ml/10a）
- クレトジム乳剤（薬量 75ml/10a）

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 5～7 年度
- (2) 研究課題名 先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立
〔福島国際研究教育機構（F-REI） 農林水産分野の先端技術展開事業（JPJ009997）
「現地実証研究委託事業」（JPFR23060107、JPFR24060107、JPFR25060107）〕

5 主な参考文献・資料 なし